

14) 趣味・生きがい

趣味・生きがいは、「あり」が要介護1に比べて要支援が有意に多かった。(表 59、図 80、81)

性別における趣味・生きがいは、要支援では「あり」が男性に比べて女性に多く、要介護1では女性に比べて男性に多かったが両者間に有意差は見られなかった。(表 60)

年齢2区分における趣味・生きがいとの関係は、要支援および要介護1ともに「74歳以下」と「75歳以上」の間で有意な差は見られなかった。(表 61)

家族構成2区分における趣味は、「あり」が要支援、要介護1ともに「一人暮らし以外」に比べて「一人暮らし」に有意に多かった。生きがいについては、要支援および要介護1ともに「一人暮らし」と「一人暮らし以外」の間に有意な差は見られなかった。(表 62)

主観的健康感2区分における趣味・生きがいとの関係は、「あり」が要支援および要介護1ともに「健康でない」に比べて「健康である」が有意に多かった。(表 63)

外出頻度における趣味・生きがいとの関係は、「あり」が要支援および要介護1ともに「ほとんど外出しない」に比べて「1週間に1回以上」の方が有意に多かった。(表 64)

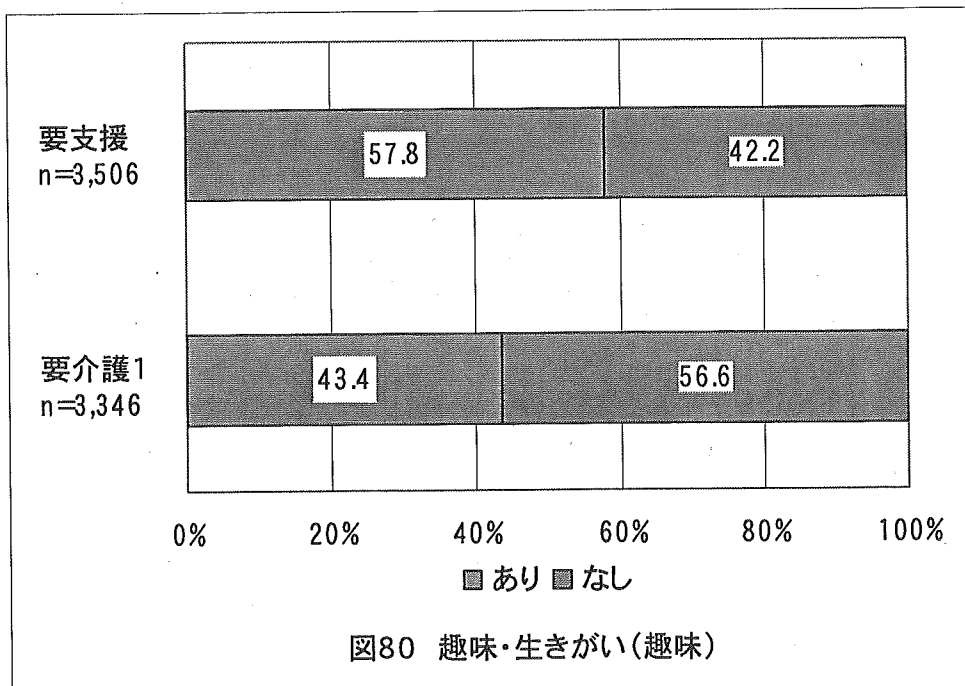
老研式活動能力指標得点は、要支援および要介護1ともに趣味・生きがい「なし」に比べて「あり」が有意に高くなっていた。(表 65)

認知症得点は、要支援および要介護1ともに趣味・生きがい「なし」に比べて「あり」が有意に低くなっていた。(表 66)

表59 趣味・生きがい

項目	有無	要支援		要介護1		χ <sup>2</sup> 検定
		人数	(%)	人数	(%)	
趣味	あり	2,026	( 57.8 )	1,451	( 43.4 )	***
	なし	1,480	( 42.2 )	1,895	( 56.6 )	
	計	3,506	( 100.0 )	3,346	( 100.0 )	
生きがい	あり	1,607	( 51.4 )	1,224	( 40.2 )	***
	なし	1,522	( 48.6 )	1,821	( 59.8 )	
	計	3,129	( 100.0 )	3,045	( 100.0 )	

\*\*\*P<0.001



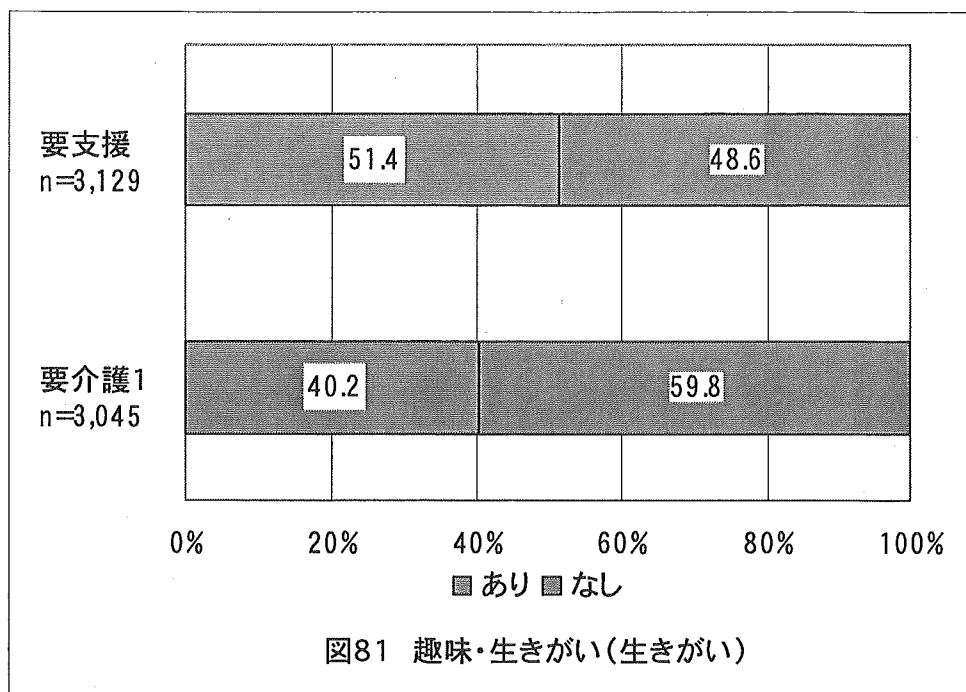


表60 性別の趣味・生きがいの有無

要介護度	項目	有無	男性 人数(%)	女性 人数(%)	$\chi^2$ 検定
要支援	趣味 (3,473人)	あり	528 ( 55.6 )	1,480 ( 58.7 )	n.s.
		なし	422 ( 44.4 )	1,043 ( 41.3 )	
	生きがい (3,104人)	あり	425 ( 49.2 )	1,170 ( 52.2 )	n.s.
		なし	438 ( 50.8 )	1,071 ( 47.8 )	
要介護1	趣味 (3,311人)	あり	415 ( 44.9 )	1,021 ( 42.8 )	n.s.
		なし	510 ( 55.1 )	1,365 ( 57.2 )	
	生きがい (3,016人)	あり	349 ( 41.0 )	862 ( 39.8 )	n.s.
		なし	502 ( 59.0 )	1,303 ( 60.2 )	

n.s.not significant

表61 年齢2区分の趣味・生きがいの有無

要介護度	項目	有無	~74歳 人数(%)	75歳~ 人数(%)	$\chi^2$ 検定
要支援	趣味 (3,442人)	あり	540 ( 58.4 )	1,451 ( 57.6 )	n.s.
		なし	385 ( 41.6 )	1,066 ( 42.4 )	
	生きがい (3,080人)	あり	426 ( 51.1 )	1,153 ( 51.3 )	n.s.
		なし	407 ( 48.9 )	1,094 ( 48.7 )	
要介護1	趣味 (3,298人)	あり	395 ( 45.4 )	1,036 ( 42.7 )	n.s.
		なし	476 ( 54.6 )	1,391 ( 57.3 )	
	生きがい (3,002人)	あり	329 ( 41.3 )	879 ( 39.8 )	n.s.
		なし	467 ( 58.7 )	1,327 ( 60.2 )	

n.s.not significant

表62 家族構成2区分の趣味・生きがいの有無

要介護度	項目	有無	1人暮らし 人数(%)	それ以外 人数(%)	$\chi^2$ 検定
要支援	趣味 (3,463人)	あり	769 ( 60.8 )	1,234 ( 56.1 )	**
		なし	496 ( 39.2 )	964 ( 43.9 )	
	生きがい (3,095人)	あり	589 ( 51.5 )	1,000 ( 51.3 )	n.s.
		なし	555 ( 48.5 )	951 ( 48.7 )	
要介護1	趣味 (3,310人)	あり	423 ( 47.5 )	1,017 ( 42.0 )	**
		なし	468 ( 52.5 )	1,402 ( 58.0 )	
	生きがい (3,017人)	あり	346 ( 41.8 )	867 ( 39.6 )	n.s.
		なし	482 ( 58.2 )	1,322 ( 60.4 )	

n.s.not significant, \*\* $P < 0.01$ 

表63 主観的健康感2区分の趣味・生きがいの有無

要介護度	項目	有無	健康である 人数(%)	健康でない 人数(%)	$\chi^2$ 検定
要支援	趣味 (3,435人)	あり	766 ( 64.2 )	1,213 ( 54.1 )	***
		なし	427 ( 35.8 )	1,029 ( 45.9 )	
	生きがい (3,072人)	あり	633 ( 60.7 )	938 ( 46.2 )	***
		なし	410 ( 39.3 )	1,091 ( 53.8 )	
要介護1	趣味 (3,277人)	あり	498 ( 48.9 )	917 ( 40.6 )	***
		なし	521 ( 51.1 )	1,341 ( 59.4 )	
	生きがい (2,991人)	あり	427 ( 46.4 )	773 ( 37.3 )	***
		なし	493 ( 53.6 )	1,298 ( 62.7 )	

\*\*\* $P < 0.001$ 

表64 外出頻度の趣味・生きがいの有無

要介護度	項目	有無	1週間に1回以上 人数(%)	ほとんど外出しない 人数(%)	$\chi^2$ 検定
要支援	趣味 (3,286人)	あり	1,694 ( 60.8 )	206 ( 41.3 )	***
		なし	1,093 ( 39.2 )	293 ( 58.7 )	
	生きがい (2,938人)	あり	1,342 ( 54.0 )	156 ( 34.5 )	***
		なし	1,144 ( 46.0 )	296 ( 65.5 )	
要介護1	趣味 (3,192人)	あり	298 ( 31.3 )	1,083 ( 48.3 )	***
		なし	653 ( 68.7 )	1,158 ( 51.7 )	
	生きがい (2,910人)	あり	918 ( 45.0 )	246 ( 28.3 )	***
		なし	1,122 ( 55.0 )	624 ( 71.7 )	

\*\*\* $P < 0.001$

表65 趣味・生きがいの老研式活動能力指標得点

要介護度	項目	有無	人数	平均値	標準偏差	t検定
要支援	趣味 (2,977人)	あり	1,699	9.4	3.0	***
		なし	1,278	6.7	3.3	
	生きがい (2,699人)	あり	1,376	9.3	3.0	***
		なし	1,323	7.1	3.4	
要介護1	趣味 (2,902人)	あり	1,241	7.4	3.3	***
		なし	1,661	4.7	3.2	
	生きがい (2,669人)	あり	1,063	7.3	3.4	***
		なし	1,606	4.8	3.2	

\*\*\* $P < 0.001$

表66 趣味・生きがいの認知症得点

要介護度	項目	有無	人数	平均値	標準偏差	t検定
要支援	趣味 (3,148人)	あり	1,804	2.8	1.2	***
		なし	1,344	3.1	1.1	
	生きがい (2,831人)	あり	1,428	2.7	1.2	***
		なし	1,403	3.2	1.1	
要介護1	趣味 (3,100人)	あり	1,333	2.8	1.2	***
		なし	1,767	3.2	1.1	
	生きがい (2,847人)	あり	1,131	2.8	1.2	***
		なし	1,716	3.2	1.0	

\*\*\* $P < 0.001$

## 15) 高齢者抑うつ尺度

高齢者抑うつ尺度は、要支援に比べて要介護1が項目1については「いいえ」が、項目2～5については「はい」の回答の方が有意に多かった。(表67、図82～86)

高齢者抑うつ尺度得点は、要支援に比べて要介護1の方が有意に高かった。また、要支援および要介護1ともに尺度得点は2点以上であり抑うつを疑う得点であった。(表68、図87)。

性別にみた高齢者抑うつ尺度得点は、要支援および要介護1ともに男性と女性の間で有意な差は見られなかった。(表69、図88、89)

年齢別にみた高齢者抑うつ尺度得点は、要支援では65歳未満が最も高く、その他の年齢では同じ得点であった。また、要介護1では年齢が高くなるにつれて高くなっていった。(表70、図90、91)

家族構成別にみた高齢者抑うつ尺度得点は、要支援では「夫婦二人」が最も低く、「施設入所」が最も高かった。要介護1では「一人暮らし」が最も高く、その他は同じ得点であった。(表71、図92、93)

主観的健康感からみた高齢者抑うつ尺度得点は、要支援および要介護1ともに「健康である」に比べ、「健康でない」が有意に高かった。要支援の場合は、「健康である」は、うつ傾向を疑う得点ではなかった。(表72、図94、95)

外出頻度と高齢者抑うつ尺度得点との関係では、要支援および要介護1ともに「1週間に1回以上」に比べて「ほとんど外出しない」の方が得点は有意に高かった。(表73)

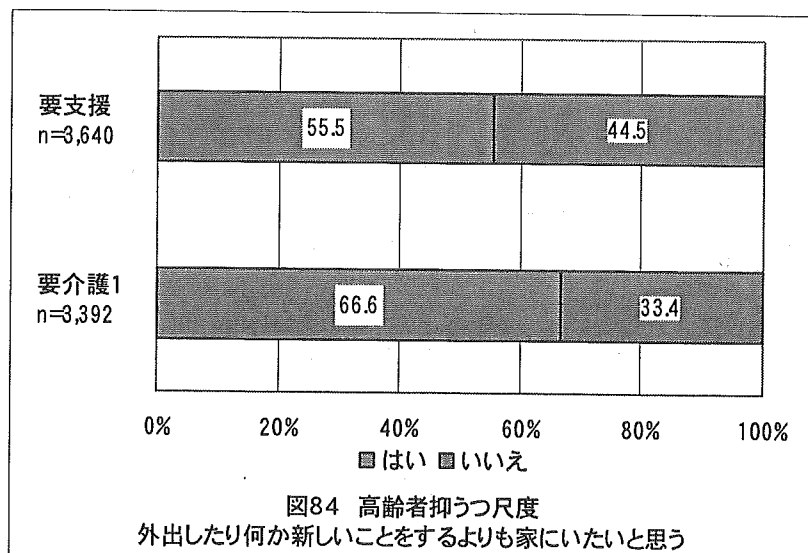
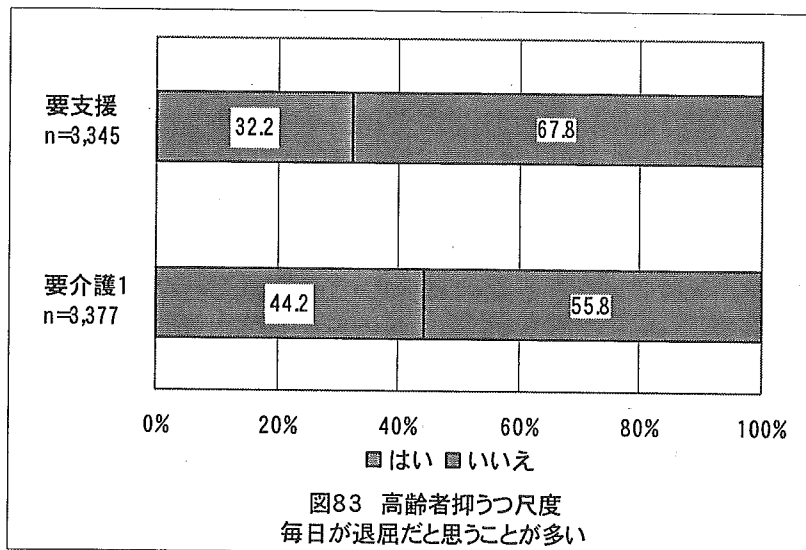
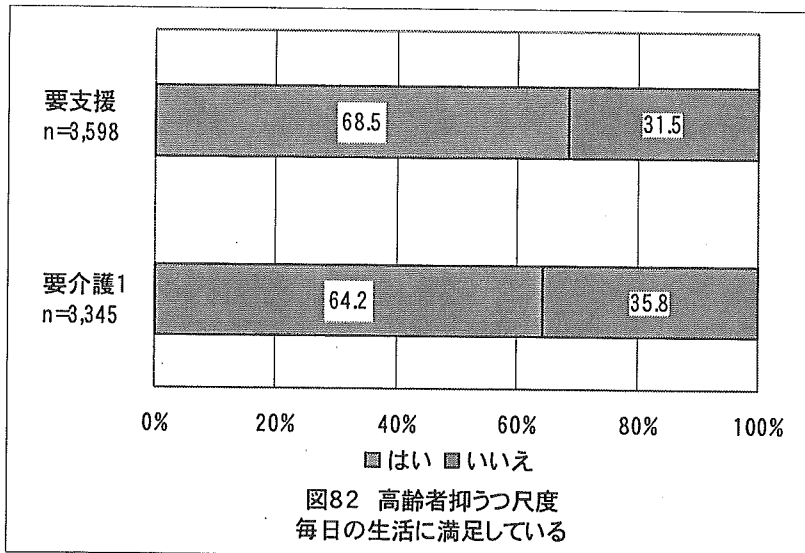
地域での活動への参加と高齢者抑うつ尺度得点との関係では、要支援および要介護1ともに「あり」に比べて「なし」の方が得点は有意に高くなっていった。要支援および要介護1ともに地域での活動への参加がある場合は、うつ傾向を疑う得点ではなかった。(表74)

趣味・生きがいの有無と高齢者抑うつ尺度得点との関係では、趣味は要支援および要介護1ともに「あり」に比べて、「なし」の得点が有意に高くなっていった。趣味の場合は要支援が、生きがいでは要支援および要介護1ともに「あり」は、うつ傾向を疑う得点ではなかった。(表75、76)。

表67 高齢者抑うつ尺度

項目		要支援 人数(%)	要介護1 人数(%)	$\chi^2$ 検定
毎日の生活に満足している (6,943人)	はい	2,465 ( 68.5 )	2,148 ( 64.2 )	***
	いいえ	1,133 ( 31.5 )	1,197 ( 35.8 )	
毎日が退屈だと思ふことが多い (7,010人)	はい	1,171 ( 32.2 )	1,491 ( 44.2 )	***
	いいえ	2,462 ( 67.8 )	1,886 ( 55.8 )	
外出したり何か新しいことをするよりも家にいたいと思う (7,032人)	はい	2,019 ( 55.5 )	2,258 ( 66.6 )	***
	いいえ	1,621 ( 44.5 )	1,134 ( 33.4 )	
生きていても仕方がないと思う気持ちになることがある (7,042人)	はい	1,323 ( 36.3 )	1,477 ( 43.5 )	***
	いいえ	2,326 ( 63.7 )	1,916 ( 56.5 )	
自分が無力だなどと思ふことが多い (7,044人)	はい	2,217 ( 61.2 )	2,400 ( 70.1 )	***
	いいえ	1,404 ( 38.8 )	1,023 ( 29.9 )	

\*\*\* $P < 0.001$



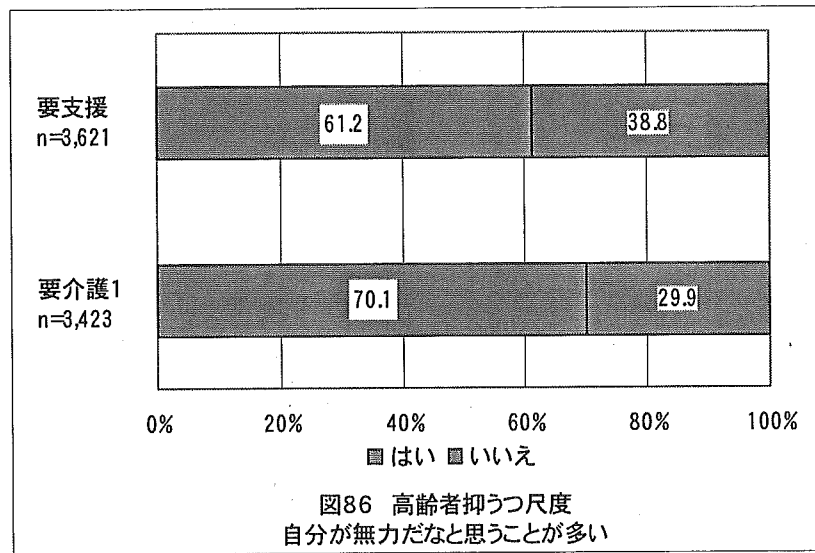
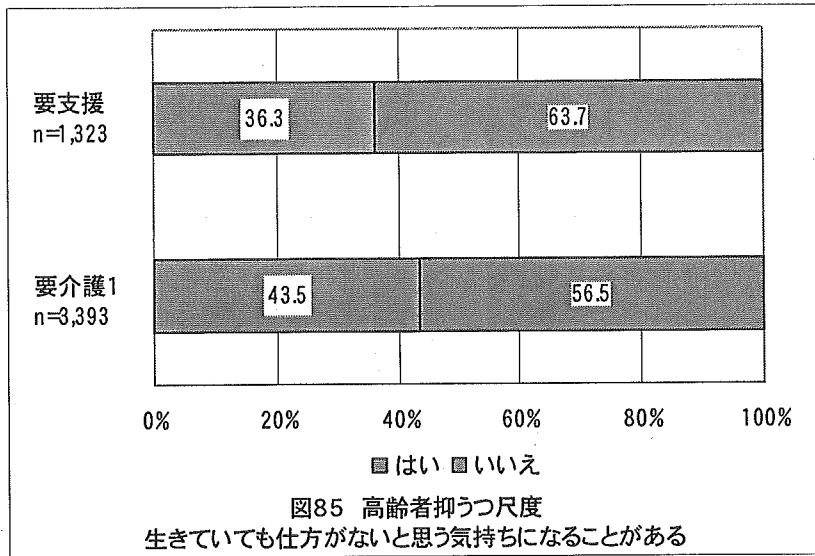


表68 高齢者抑うつ尺度得点

要介護度	人数	平均値	標準偏差	t検定
要支援	3,304	2.1	1.5	***
要介護1	3,009	2.6	1.5	

\*\*\* $P < 0.001$

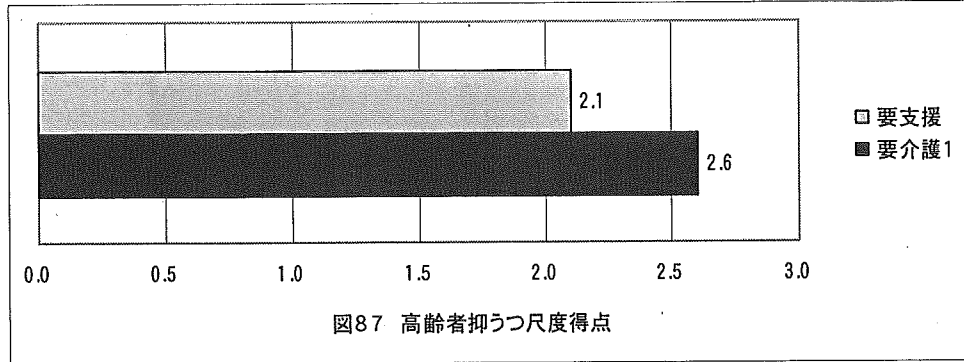


表69 性別の高齢者抑うつ尺度得点

要介護度	性別	人数	平均値	標準偏差	t検定
要支援 (3,272人)	男性	901	2.2	1.6	n.s.
	女性	2,371	2.1	1.5	
要介護1 (2,979人)	男性	849	2.6	1.6	n.s.
	女性	2,130	2.6	1.5	

n.s. not significant

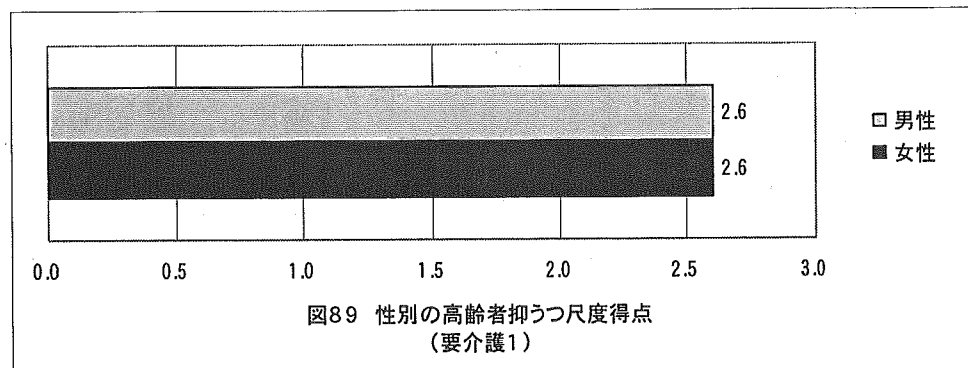
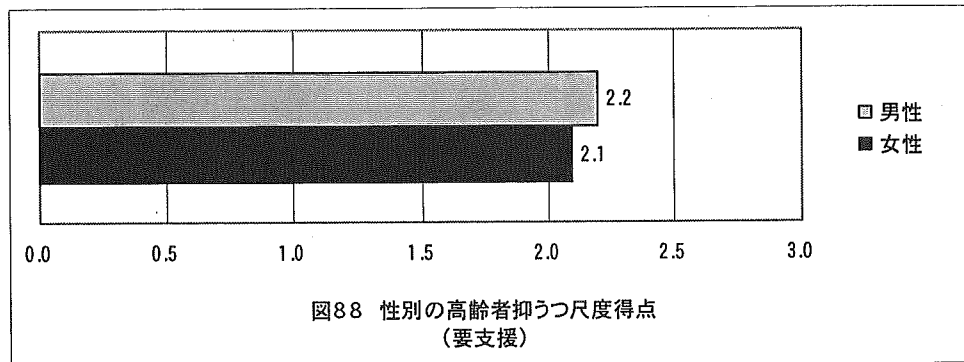




表70 年齢別の高齢者抑うつ尺度得点

要介護度	年齢区分	人数	平均値	標準偏差
要支援	～64歳	52	2.8	1.7
	65歳～74歳	819	2.1	1.6
	75歳～84歳	1,700	2.1	1.5
	85歳～	674	2.1	1.5
	計	3,245	2.1	1.5
要介護1	～64歳	120	2.4	1.5
	65歳～74歳	664	2.5	1.6
	75歳～84歳	1,359	2.6	1.5
	85歳～	823	2.7	1.5
	計	2,966	2.6	1.5

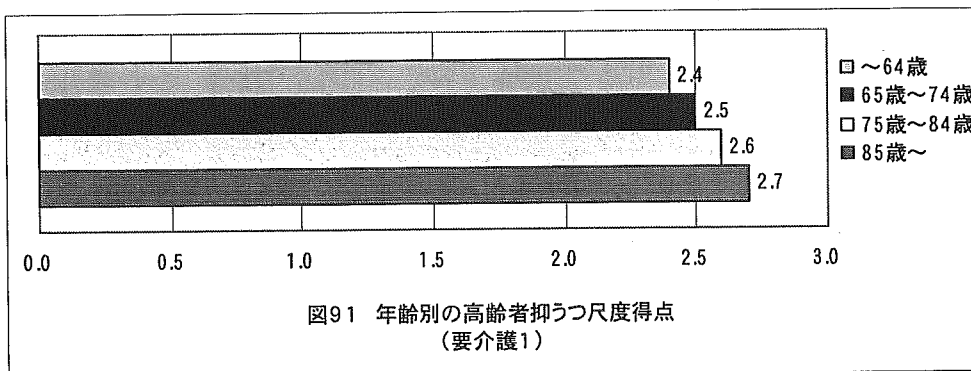
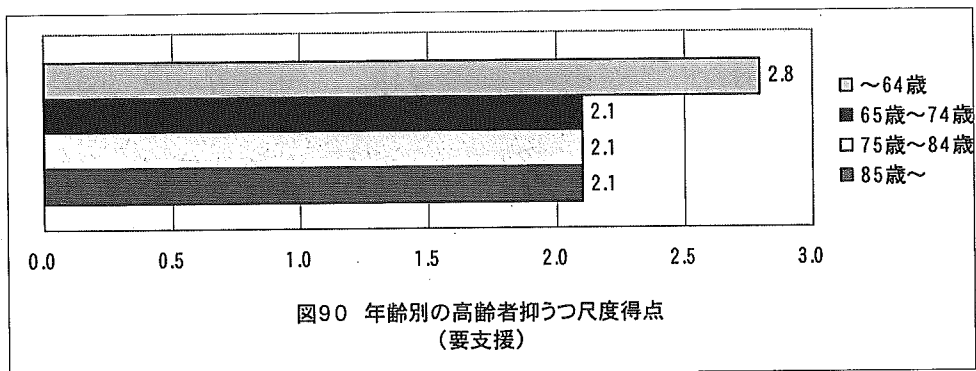


表71 家族構成別の高齢者抑うつ尺度得点

要介護度	家族構成区分	人数	平均値	標準偏差
要支援	一人暮らし	1,180	2.2	1.6
	夫婦二人	984	2.0	1.5
	その他	1,064	2.1	1.5
	有料老人ホーム・施設等に入所	41	2.4	1.4
	計	3,269	2.1	1.5
要介護1	一人暮らし	785	2.7	1.5
	夫婦二人	827	2.5	1.5
	その他	1,234	2.5	1.5
	有料老人ホーム・施設等に入所	127	2.5	1.5
	計	2,973	2.6	1.5

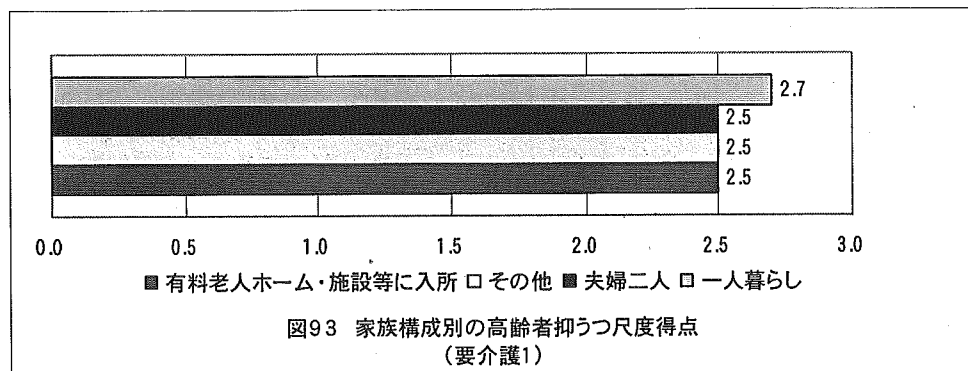
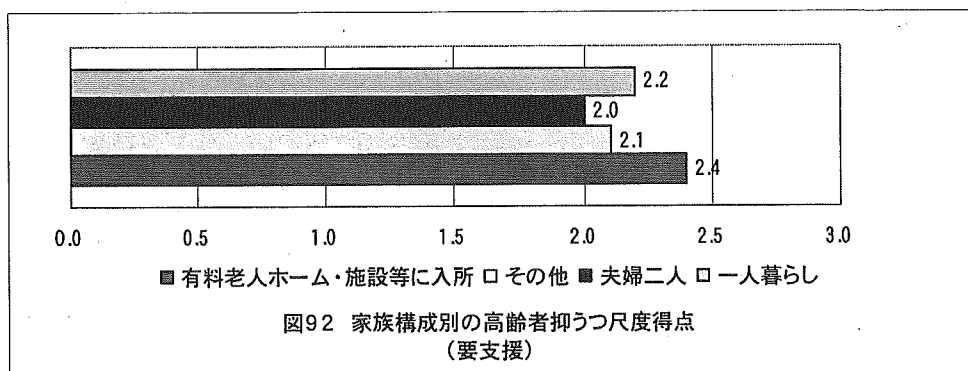


表72 主観的健康感の高齢者抑うつ尺度得点

要介護度	主観的健康感	人数	平均値	標準偏差	t検定
要支援 (3,243人)	健康である	1,138	1.6	1.4	***
	健康でない	2,105	2.5	1.5	
要介護1 (2,949人)	健康である	911	2.1	1.5	***
	健康でない	2,038	2.8	1.5	

\*\*\* $P < 0.001$

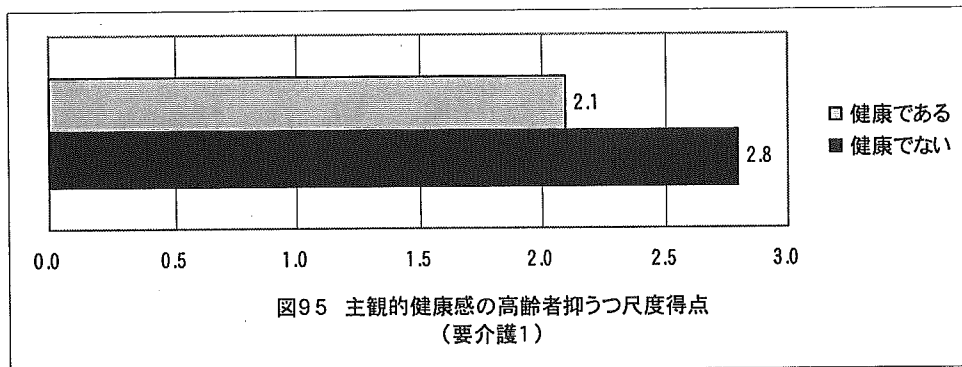
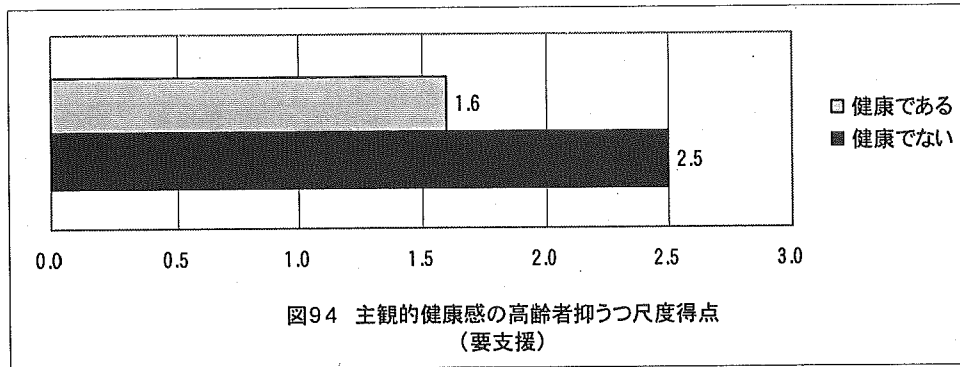


表73 外出頻度の高齢者抑うつ尺度得点

要介護度	外出頻度	人数	平均値	標準偏差	t検定
要支援 (3,105人)	1週間に1回以上	2,642	2.0	1.5	***
	ほとんど外出しない	463	2.8	1.5	
要介護1 (2,867人)	1週間に1回以上	2,024	2.4	1.5	***
	ほとんど外出しない	843	3.1	1.4	

\*\*\* $P < 0.001$

表74 地域での活動への参加の高齢者抑うつ尺度得点

要介護度	外出頻度	人数	平均値	標準偏差	t検定
要支援 (3,108人)	参加あり	870	1.6	1.4	***
	参加なし	2,238	2.3	1.5	
要介護1 (2,893人)	参加あり	489	1.9	1.5	***
	参加なし	2,404	2.7	1.5	

\*\*\* $P < 0.001$

表75 趣味の有無の高齢者抑うつ尺度得点

要介護度	趣味の有無	人数	平均値	標準偏差	t検定
要支援 (3,133人)	あり	1,813	1.8	1.4	***
	なし	1,320	2.7	1.5	
要介護1 (2,833人)	あり	1,217	2.1	1.5	***
	なし	1,616	3.0	1.4	

\*\*\* $P < 0.001$

表76 生きがいの有無の高齢者抑うつ尺度得点

要介護度	生きがいの有無	人数	平均値	標準偏差	t検定
要支援 (2,861人)	あり	1,471	1.4	1.3	***
	なし	1,390	2.9	1.4	
要介護1 (2,642人)	あり	1,049	1.8	1.4	***
	なし	1,593	3.2	1.4	

\*\*\* $P < 0.001$

16) サービス利用状況

健康診査の受診間隔は、要支援および要介護1ともに「毎年」が最も多く7割強を占めていたが、「まったく受診しない」も要支援では1割強、要介護1では2割弱を占めていた。(表77、図96)

介護保険サービスの認知の程度は、要支援および要介護1ともに「よく知っている」が1割にも満たず、「ほとんど知らない」と「まったく知らない」とを合わせると3割前後を占めていた。(表78、図97)

現在の介護保険サービスの利用は、「あり」が要支援に比べて要介護1が有意に多かった。(表79、図98)

利用している介護保険サービスは、要支援および要介護1ともに、「訪問介護」が最も多く、次いで「住宅改修」であった。(表80)

利用している保健福祉サービスは、要支援および要介護1ともに「食」の自立支援事業が最も多く、次いで「小地域ネットワーク(集団援助)」、「緊急通報体制等整備事業」であった。(表81)

あればいいサービスは、要支援および要介護1ともに「人と交流できる場」が最も多く、次いで「趣味の教室」、「健康相談の場」であった。(表82)

表77 健康診査受診間隔

健康診査受診間隔	要支援 人数(%)	要介護1 人数(%)
毎年	2,535 ( 74.5 )	2,264 ( 70.8 )
2~3年に1回程度	440 ( 12.9 )	403 ( 12.6 )
まったく受診しない	427 ( 12.6 )	531 ( 16.6 )
計	3,402 ( 100.0 )	3,198 ( 100.0 )

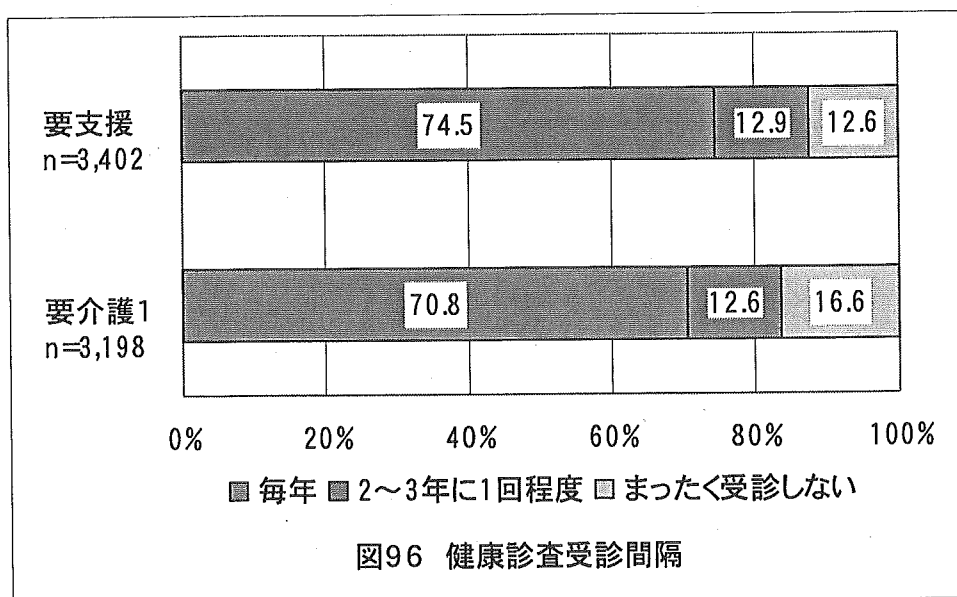


表78 介護保険サービスについての認知の程度

認知の程度	要支援 人数(%)	要介護1 人数(%)
よく知っている	341 ( 9.1 )	314 ( 8.7 )
まあまあ知っている	2,414 ( 64.7 )	2,082 ( 57.9 )
ほとんど知らない	843 ( 22.6 )	998 ( 27.8 )
まったく知らない	132 ( 3.5 )	199 ( 5.5 )
計	3,730 ( 100.0 )	3,593 ( 100.0 )

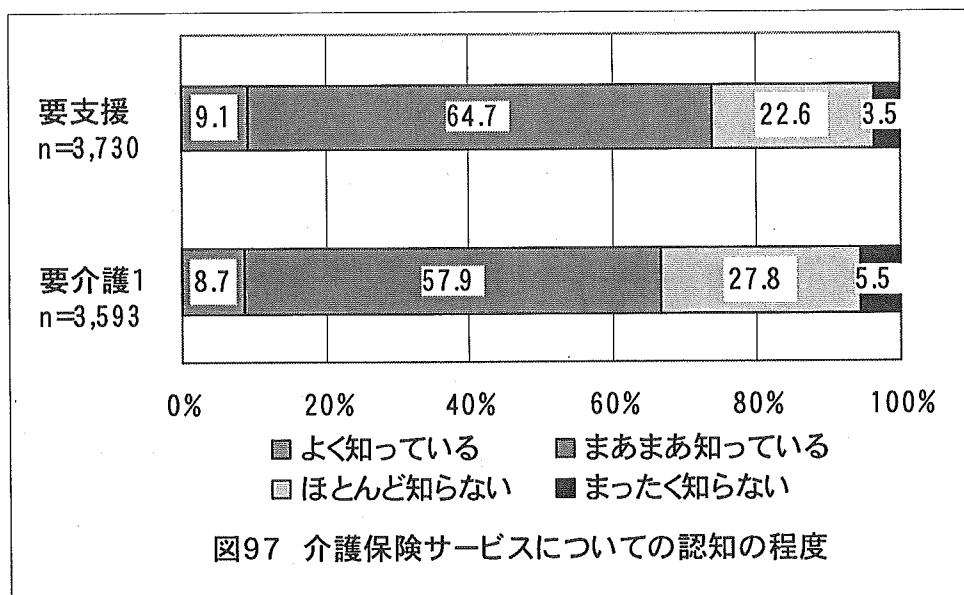
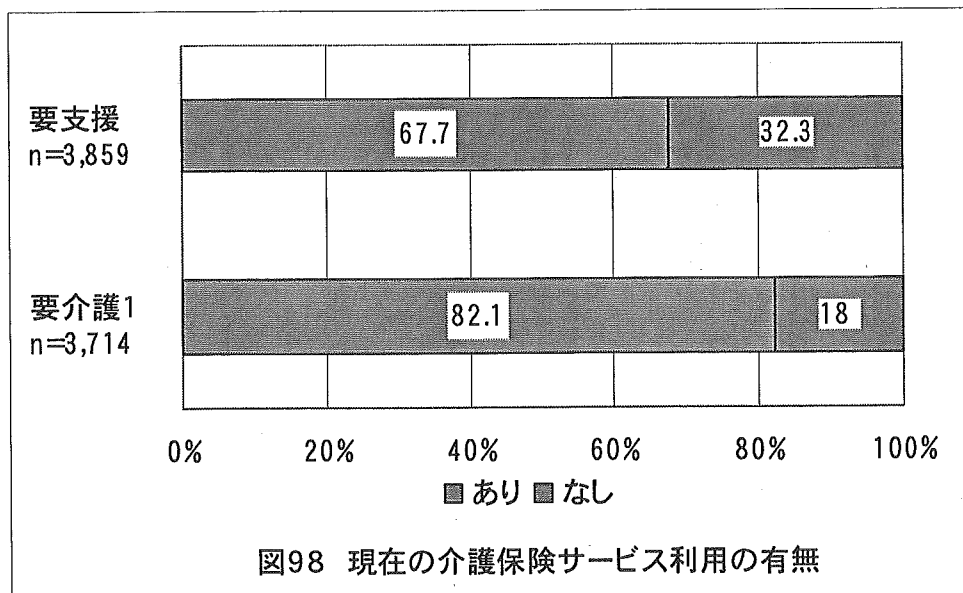


表79 現在の介護保険サービス利用の有無

利用の有無	要支援 人数(%)	要介護1 人数(%)	$\chi^2$ 検定
あり	2,613 ( 67.7 )	3,050 ( 82.1 )	***
なし	1,246 ( 32.3 )	664 ( 17.9 )	
計	3,859 ( 100.0 )	3,714 ( 100.0 )	

\*\*\* $P < 0.001$



サービス項目	要支援 N=2,613		要介護1 N=3,050	
	人数	(%)	人数	(%)
訪問介護	1,303	( 49.9 )	1,312	( 43.0 )
訪問入浴介護	72	( 2.8 )	152	( 5.0 )
訪問看護	99	( 3.8 )	172	( 5.6 )
訪問リハ	53	( 2.0 )	121	( 4.0 )
通所介護	496	( 19.0 )	916	( 30.0 )
通所リハ	213	( 8.2 )	489	( 16.0 )
ベッドのレンタル	292	( 11.2 )	525	( 17.2 )
車椅子のレンタル	137	( 5.2 )	387	( 12.7 )
その他のレンタル	80	( 3.1 )	146	( 4.8 )
ショートステイ	38	( 1.5 )	130	( 4.3 )
ポータブルトイレの購入	131	( 5.0 )	259	( 8.5 )
入浴関連用具の購入	390	( 14.9 )	603	( 19.8 )
その他のレンタル購入	99	( 3.8 )	116	( 3.8 )
住宅改修	905	( 34.6 )	1,103	( 36.2 )
有料老人ホーム	66	( 2.5 )	95	( 3.1 )
グループホーム			36	( 1.2 )
特別養護老人ホーム			53	( 1.7 )
老人保健施設			89	( 2.9 )
介護療養型医療施設			45	( 1.5 )

サービス項目	要支援 N=887		要介護1 N=745	
	人数	(%)	人数	(%)
訪問指導	11	( 1.2 )	16	( 2.1 )
機能訓練A型	31	( 3.5 )	32	( 4.3 )
機能訓練B型	87	( 9.8 )	81	( 10.9 )
健康相談	8	( 0.9 )	1	( 0.1 )
健康診査	52	( 5.9 )	21	( 2.8 )
健康教育	46	( 5.2 )	10	( 1.3 )
転倒骨折予防教室	70	( 7.9 )	37	( 5.0 )
アクティビティ・痴呆介護教室	4	( 0.5 )	6	( 0.8 )
生きがい活動支援通所事業	23	( 2.6 )	18	( 2.4 )
「食」の自立支援事業	259	( 29.2 )	277	( 37.2 )
緊急通報体制等整備事業	170	( 19.2 )	106	( 14.2 )
高齢者等の生活支援事業	37	( 4.2 )	63	( 8.5 )
小地域ネットワーク活動(集団援助)	170	( 19.2 )	121	( 16.2 )
小地域ネットワーク活動(個別援助)	9	( 1.0 )	9	( 1.2 )
老人福祉センター	6	( 0.7 )	20	( 2.7 )
家族介護教室	1	( 0.1 )	3	( 0.4 )

表82 あればいいと思うサービス

サービス項目	複数回答	
	要支援 N=2,120 人数(%)	要介護1 N=1,860 人数(%)
人と交流できる場	863 ( 40.7 )	777 ( 41.8 )
毎日出かけられる場	457 ( 21.6 )	428 ( 23.0 )
運動・体操の教室	509 ( 24.0 )	400 ( 21.5 )
趣味の教室	670 ( 31.6 )	522 ( 28.1 )
農作業・園芸の機会	194 ( 9.2 )	172 ( 9.2 )
ボランティアの機会	75 ( 3.5 )	60 ( 3.2 )
パソコン・インターネットの教室	236 ( 11.1 )	149 ( 8.0 )
働く場	78 ( 3.7 )	68 ( 3.7 )
健康相談の場	541 ( 25.5 )	458 ( 24.6 )
健康に関する講座	498 ( 23.5 )	335 ( 18.0 )
その他	259 ( 12.2 )	245 ( 13.2 )



## 5. まとめ

平成16年度初回調査の調査結果より、要支援、要介護1の身体・心理・社会的側面および環境として以下の点があげられる。

### 1) 基本属性

#### (1) 性別

- ・性別は、要支援および要介護1ともに「男性」が3割弱、「女性」が7割強を占めており、性別については要支援と要介護1の間に有意差は見られなかった。

#### (2) 年齢

- ・年齢は、要支援および要介護1ともに「75歳以上の後期高齢者」が7割強を占めており、「85歳以上」も要支援では約2割、要介護1では3割弱を占めていた。

#### (3) 家族構成

- ・家族構成は、要支援では「一人暮らし」が4割弱と最も多く、次いで「夫婦二人」が約3割であった。要介護1では、「一人暮らし」と「夫婦二人」がそれぞれ3割弱を占めていた。

### 2) 身体的側面

#### (1) 治療中の病気

- ・治療中の病気は、要支援および要介護1ともに「あり」が7割弱を占めており、治療中の病気は、要介護1に比べ要支援の方が「あり」が有意に多かった。また、治療中の疾患は、要支援、要介護1ともに「関節痛や神経痛」が最も多く、次いで「高血圧」であった。

#### (2) 過去1年間の入院経験

- ・過去1年間の入院経験は、要支援では「あり」が4割弱であり、要介護1が約4割をこえ、過去1年間の入院経験は、要支援に比べて要介護1が「あり」が有意に多かった。

#### (3) 過去1年間の転倒経験

- ・過去1年間の転倒経験は、要支援では「あり」が約5割、要介護1が6割弱を占めており、過去1年間の転倒経験は、要支援に比べて要介護1の方が「あり」が有意に多かった。

#### (4) ADL

- ・ADLは、いずれの項目も、要支援に比べて要介護1の方が「介助が必要」である者や、大小便の失敗が「ある」者が有意に多かった。
- ・ADL得点は、要介護1に比べ要支援の方が有意に高かった。
- ・性別におけるADL得点は、要支援および要介護1ともに「男性」より「女性」の方が有意に高かった。
- ・年齢別におけるADL得点は、要支援および要介護1ともに年齢が高くなるにつれてADL得点は低くなる傾向があった。

- ・家族構成別における ADL 得点は、要支援および要介護 1 とともに「一人暮らし」「夫婦二人」が高かった。

#### (5) 老研式活動能力指標得点

- ・老研式活動能力指標得点は、手段的 ADL、知的 ADL、社会的活動度のいずれにおいても要介護 1 に比べて要支援の方が有意に高かった。
- ・性別における老研式活動能力指標得点は、要支援および要介護 1 とともに手段的 ADL、社会的活動度および、合計では「男性」に比べて「女性」が有意に高かったが、知的 ADL では「女性」に比べて「男性」が有意に高かった。
- ・年齢別における老研式活動能力指標得点は、要支援および要介護 1 とともに年齢が高くなるにつれて低くなる傾向があった。
- ・家族構成別における老研式活動能力指標得点は、要支援および要介護 1 とともに「一人暮らし」や「夫婦二人」が高かった。

#### (6) 認知症早期発見スクリーニング指標

- ・認知症早期発見スクリーニング指標は、短期記憶と性格変化の項目において、要支援に比べて要介護 1の方が「はい」の回答が有意に多かった。
- ・認知症早期発見スクリーニング指標得点は、要支援に比べて要介護 1の方が有意に高かった。
- ・性別における認知症早期発見スクリーニング指標得点は、要支援では「男性」と「女性」の間に有意な差は見られなかったが、要介護 1では「男性」に比べ「女性」の方が有意に高かった。
- ・年齢別における認知症早期発見スクリーニング指標得点は、要支援では「75 歳～84 歳」が最も高かったが、要介護 1では年齢が高くなるにつれて高くなっていた。

#### (7) 咀嚼能力

- ・「食べ物の固さではどのくらいのものがかめるか」については、要支援および要介護 1 とともに、「たいていのものがかめる」が最も多く 5 割強を占めていたが、「あまりかめない」および、「ほとんど又はまったくかめない」を合わせると要支援では 3 割強を占めており、要介護 1では 4 割弱を占めていた。
- ・「かめる」と回答した者と「かめない」と回答した者の平均年齢は、要支援および要介護 1 とともに「かめない」と回答したの方が平均年齢は有意に高かった。

### 3) 心理的側面

#### (1) 主観的健康感

- ・主観的健康感は、要支援および要介護 1 とともに「あまり健康ではない」が 4 割前後と最も多かった。「健康ではない」は、要支援では 2 割強、要介護 1では約 3 割を占めていた。
- ・性別にみた主観的健康感は、要支援では男性と女性の間には有意な差は見られなかったが、要介護 1では男性に比べて女性の方が「健康である」が有意に多かった。
- ・年齢 2 区分にみた主観的健康感は、要支援および要介護 1 とともに 75 歳以上の後期高齢者が 74 歳以下に比べて「健康である」が有意に多かった。
- ・家族構成 2 区分にみた主観的健康感は、要支援、要介護 1 とともに「一人暮らし」と「一人暮らし以外」の間に有意な差は見られなかった。

## (2) 高齢者抑うつ尺度得点

- ・ 高齢者抑うつ尺度得点は、要支援に比べて要介護1の方が有意に高かった。また、要支援および要介護1ともに尺度得点は2点以上であり抑うつを疑う得点であった。
- ・ 性別にみた高齢者抑うつ尺度得点は、要支援および要介護1ともに「男性」と「女性」の間で有意な差は見られなかった。
- ・ 年齢別にみた高齢者抑うつ尺度得点は、要支援では「65歳未満」が最も高く、その他の年齢では同じ得点であった。また、要介護1では年齢が高くなるにつれて高くなっていた。
- ・ 家族構成別にみた高齢者抑うつ尺度得点は、要支援では「夫婦二人」が最も低く、「施設入所」が最も高かった。要介護1では「一人暮らし」が最も高く、その他は同じ得点であった。
- ・ 主観的健康感からみた高齢者抑うつ尺度得点は、要支援および要介護1ともに「健康である」に比べ、「健康でない」が有意に高かった。要支援の場合は、「健康である」は、うつ傾向を疑う得点ではなかった。
- ・ 外出頻度と高齢者抑うつ尺度得点との関係では、要支援および要介護1ともに「1週間に1回以上」に比べて「ほとんど外出しない」の方が得点は有意に高かった。
- ・ 地域での活動への参加と高齢者抑うつ尺度得点との関係では、要支援および要介護1ともに「あり」に比べて「なし」の方が得点は有意に高くなっていた。要支援および要介護1ともに地域での活動への参加がある場合は、うつ傾向を疑う得点ではなかった。
- ・ 趣味・生きがいの有無と高齢者抑うつ尺度得点との関係では、趣味は要支援および要介護1ともに「あり」に比べて、「なし」の得点が有意に高くなっていた。趣味の場合は要支援が、生きがいでは要支援および要介護1ともに「あり」は、うつ傾向を疑う得点ではなかった。

## (3) 生きがい

- ・ 生きがいは、「あり」が要介護1に比べて要支援が有意に多かった。
- ・ 性別における生きがいは、要支援では「あり」が男性に比べて女性に多く、要介護1では女性に比べて男性に多かったが両者間に有意差は見られなかった。
- ・ 年齢2区分における生きがいは、要支援および要介護1ともに「74歳以下」と「75歳以上」の間で有意な差は見られなかった。
- ・ 家族構成2区分における生きがいについては、要支援および要介護1ともに「一人暮らし」と「一人暮らし以外」の間に有意な差は見られなかった。
- ・ 主観的健康感2区分における生きがいは、「あり」が要支援および要介護1ともに「健康でない」に比べて「健康である」が有意に多かった。
- ・ 外出頻度における生きがいは、「あり」が要支援および要介護1ともに「ほとんど外出しない」に比べて「1週間に1回以上」の方が有意に多かった。
- ・ 老研式活動能力指標得点は、要支援および要介護1ともに生きがい「なし」に比べて「あり」が有意に高くなっていた。
- ・ 認知症得点は、要支援および要介護1ともに生きがい「なし」に比べて「あり」が有意に低くなっていた。

## 4) 社会的側面

### (1) 趣味

- ・趣味は、「あり」が要介護1に比べて要支援が有意に多かった。
- ・性別における趣味は、要支援では「あり」が男性に比べて女性に多く、要介護1では女性に比べて男性に多かったが両者間に有意差は見られなかった。
- ・年齢2区分における趣味は、要支援および要介護1ともに「74歳以下」と「75歳以上」の間で有意な差は見られなかった。
- ・家族構成2区分における趣味は、「あり」が要支援、要介護1ともに「一人暮らし以外」に比べて「一人暮らし」に有意に多かった。
- ・主観的健康感2区分における趣味は、「あり」が要支援および要介護1ともに「健康でない」に比べて「健康である」が有意に多かった。
- ・外出頻度における趣味は、「あり」が要支援および要介護1ともに「ほとんど外出しない」に比べて「1週間に1回以上」の方が有意に多かった。
- ・老研式活動能力指標得点は、要支援および要介護1ともに趣味「なし」に比べて「あり」が有意に高くなっていた。
- ・認知症得点は、要支援および要介護1ともに趣味「なし」に比べて「あり」が有意に低くなっていた。

### (2) 他者との交流

- ・同居の家族との付き合いの程度は、要支援および要介護1ともに「よく話す」が5割前後を占め、「ときどき話す」とを合わせると9割強を占めていた。
- ・別居の親戚や兄弟姉妹との付き合いの程度は、要支援および要介護1ともに「よく話す」が2割前後、「ときどき話す」とを合わせると8割前後を占めていた。
- ・友人・知人との付き合いの頻度は、要支援および要介護1ともに「毎日」が1割前後であり、「週1~2回」とを合わせると要支援では約5割、要介護1では約4割を占めていた。一方、「月1回未満」は要支援では3割弱、要介護1では4割弱を占めていた。
- ・近所付き合いは、要支援および要介護1ともに「会えば挨拶する程度」が5割弱を占め最も多く、次いで「ときどき世間話をする」が要支援では3割弱、要介護1では2割強であった。「困ったときにお互い相談したり助け合ったりする」と「気軽に行き来する」とを合わせても要支援および要介護1ともに2割に満たなかった。

### (3) 家庭・地域での役割、地域活動への参加

- ・家庭内での役割は、「あり」が要支援では5割強、要介護1では4割弱を占めており、家庭内での役割は、要支援の方が要介護1に比べて「あり」が有意に多かった。
- ・地域での役割は、「あり」が要支援では約1割、要介護1では約5分であり、地域での役割は、要支援が要介護1に比べて「あり」が有意に多かった。
- ・地域での活動への参加は、「あり」が要支援では3割弱、要介護1では2割弱であり、地域での活動への参加は、要支援が要介護1に比べて「あり」が有意に多かった。
- ・性別にみた家庭内での役割および地域での活動への参加は、「あり」が要支援、要介護1ともに「男性」に比べて「女性」が有意に多かった。地域での役割は、「男性」と「女性」の間に有意な差は見られなかった。
- ・年齢2区分にみた家庭内での役割は、「あり」が要支援、要介護1ともに「75歳以上の後期高齢者」に比べて「74歳以下」の方が「あり」は有意に多かった。地域での役割は、要支援では「75歳以上の後期高齢者」に比べて「74歳以下」の方が「あり」